

nice things.

2017 JUNE
定価 ¥800

MAGAZINE FOR GOOD LIFE WITH NICE THINGS.

6

GO ON A TRIP



旅の食卓 旅の宿



013

城下町400年の思い出

DESTINATION

兵庫・篠山

HYOGO SASAYAMA

ACCOMMODATIONS

篠山城下町ホテルNIPPONIA

SASAYAMA CASTLE TOWN HOTEL NIPPONIA

DATA

兵庫県篠山市西町25番地 ONAE 棟

☎0120-210-289

<http://sasayamastay.jp>

1泊2名利用時1名 ¥24,840 ~ (2食付)

みんなで作る、暮らす宿

集落を1つの宿として捉えたのが、前項の〈集落丸山〉。続いて、一般社団法人ノオト代表理事金野垂雄さんが、篠山城を囲う城下町全体を1つの宿として構想したのが、〈篠山城下町ホテルNIPPONIA〉。運営は歴史的建造物で、結婚式やフレンチレストランを手がけてきたバリューマネジメントだ。

城下町の一部は、国の重要伝統的建造物群保存地区にも定められるほど美しい景観ながら、集落丸山同様に、空き家は多く存在する。古民家は博物館にもなり得ないが、その土地の暮らしが一番詰まった特別な場所。しかし修復・維持するには、たくさん手間と時間、資金が必要だ。通常では拒まれる古

民家への融資だが、篠山のこれか
らを思い、地元の但馬銀行が支援。
そうして、城を中心に点在する4
棟の古民家は、当時の面影を残し
ながら地元の大工さんの腕で宿
泊棟へとよみがえった。フロント
を構えるONAE棟から、一番遠い
201棟までは歩くこと20分ほど
の距離。その間にある雑貨屋や食
事処、古い建物が残る街並み全て、
この宿に泊まる楽しみとなる。

篠山住人に聞いてみた、篠山の
魅力とは。「春は篠山城を眺める
お花見、夏は伝統的なデカンショ
祭、秋冬はおいしい作物にイノシ
シ肉の牡丹鍋ですね。昔からずっ
と一緒です」。古くから変わらな
い篠山文化の魅力は、土地に溶け
込むところから。篠山を支えるた
くさんの人が、新しく、懐かしい旅
のスタイルを完成させた。



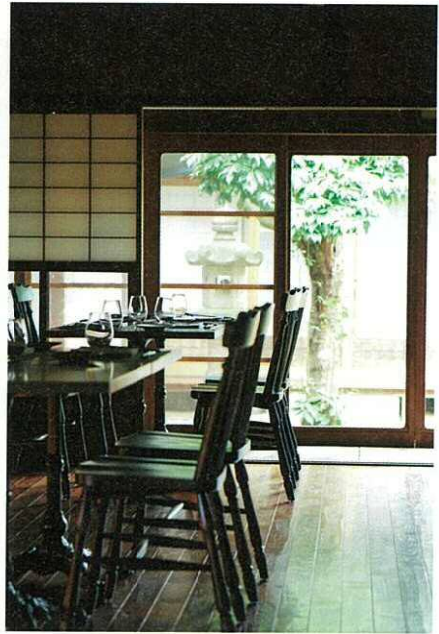
- 3
- 2
- 4
- 5
- 7
- 6
- 1

1_フロント・レストランも併設する、宿泊棟ONAE棟。2_伝建地区として城下町のなかでも特に歴史的景観の残る河原町。4,7_河原町の一角に佇む宿泊棟の1つNOZI棟。長屋の造りを生かした。4は客間の301。3_丹波篠山といえば、黒豆。お店は老舗の黒豆屋さん「小田垣商店」。5_国内外の焼きものやアンティーク雑貨がみっちり並ぶ「ハクトヤ」。6_篠山城はなくなり、現在は石垣のみが残る。





ONAE 棟の土間。当時の空間に、日本らしいデザインで作られた喜多俊之さんのランプが馴染む。



1_土間から土足で入ることができる、中庭の見えるダイニング。最近では結婚式場としても活用されている。2_コース料理のメイン「但馬牛ステーキ」。丹波で採れた、旬の野菜を添えて。ランチコース¥2,800～、ディナーコース¥5,000～ 3_ONAE棟の客間104室。もともと女中さんが住んでいた部屋を修復して作られた。天井は低く、部屋の中央に通る立派な梁にふれることができる。4_宿のスタッフはバリューマネジメントの6人と、地元の人々。5_中庭で見た風景。ささいな喜びに目がいく穏やかな空間。

2 1
3
5 4

城下町で一生物を引き継ぐ
ONAE棟の入り口。昔の人の背丈に合わせた、小さな扉をくぐる。目の前には、昔ながらの開けた土間。3つのかまどと、井戸。壁には雨で水が滴った跡や、料理をしてきた煤が黒く残る。普通なら、汚いからと塗り替えられてしまふものも、ここでは歴史の一部として大切に保存される。ONAE棟は明治期、銀行経営者の住居だった。地元の人曰く、この地域では有名な資産家で、当時はたくさんの方が、ここで生活をしていらした。家宝など、大事なものを保

管していた蔵や家主の寝室、女中が泊まっていた部屋など、それぞれの住空間はできるだけ、そのまま客間として残された。約100年前と同じ景色を目にすれば、当時の暮らしが想像できる。
ONAE棟にはフレンチレストランも併設する。メニューはコース料理のみで、今日のメインは地元の但馬牛を桜の葉で包んだステーキ、ささやかな春の訪れを感じる。「近くの農家さんと直接やり取りをして食材を仕入れます。冬が明けるのが遅かったり、夏が意外と短かったりして、篠山では季節の作物が限られますが、この自然が

生んだ味に勝るものはありませぬ」(シェフ 大西さん)。篠山の特徴を色濃く宿したレストランは、宿泊者はもちろん、地元の人の特別な日を過ごす場所にもなっている。「この前は、ここで地元の方の結婚式が開かれました。歴史を紡いできた建物が非日常な空間になって、ここがたくさんの人の思い出の地になればいいなと思います」(バリューマネジメント 木村さん)。旅は日常の、ほんのわずかな時間。けれど、400年と伝わる篠山の文化をたどる旅は、一生物の思い出となる。